

あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

クロスメディアを総合力でプロデュースする

PTC GROUP

半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525 (代) FAX 0569-29-4500
<http://www.handa-cp.co.jp>

元気のでてくる“ことばたち” (198)

村上信夫



撮影・鶴崎 燃

しがある」と書いてくれた。「ちょっとほめ過ぎだったかしらね(笑)。でも自分ではどうでもいいと思ってる辺りに、ツメの甘さを感ずるわけですよ。」

確かに僕は不器用なので、サラリーマンとしてはツメ

から、声楽をやっていた人のように高いキーが出なくて、歌のレッスンでもうまく歌えなかった。でもこの歌は私にぴったりのキーだったから、歌ったらすごく気持ちよくて涙が止まらなくなっちゃった。それで、これは歌手になるしかないと思ったんです。」

自分に転機をもたらす人との出会いも偶然ばかりだ。すべて自分の思いもしなかった

を願う、「折り鶴」を折り続けた。苦い薬の包み紙を広げ、一羽一羽折り続けた。禎子さんの甥にあたる佐々木祐滋さんが作詞作曲し、クミコさんに歌ってほしいと依頼があった。被爆者の思いを一緒に背負いながら歌ってきた。

「さあ、2011年は恋の歌でも！」と思つた矢先に、今度は震災に遭つた。あの日石巻市民会館でコンサート準備をしてい

■村上信夫プロフィール

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。現在は、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」(毎週日曜10:00~)、月刊『清流』連載対談〜ときめきトークなどで、新たな境地を開いている。各地で『ことば磨き塾』主宰。1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。著書に『嬉しいことばの種まき』『ことばのビタミン』(近代文藝社)『ラジオが好き!』(海竜社)など。趣味、将棋(二段)。
<http://murakaminobuo.com>

歌の使い走りをしてるだけ

〜歌手 クミコさん〜

が甘かったかもしれない。クミコさんはツメそのものを考えず、流れのままにいくタイプだ。

成り行きクミコ

1954年、茨城県の生まれ。早稲田大学時代は演劇に取り組んでいた。1982年、シャンソンの老舗「銀巴里」でプロデューサー。下積みが長く続いたが、作詞家松本隆さんと出会い、クミコと改名したとたん『わが麗しき恋物語』がヒットして名が知られるようになった。

歌手になったのは、偶然の成り行きだ。大学卒業間際に、たまたま向こうから歩いてきた女の子に「バンドをやらないか」と誘われて、その足で渋谷のスタジオに行ったのが始まりだ。

カンツォーネ教室で、ジリオラ・チンクエッティの『夢見る想い』を聴いたとき、歌を一生の仕事にしたいと思つた。「あの歌を聴いたときはもうびっくり。私の声は低い



俳画/イネ・セイミ

ことで変化が訪れるから、あれこれ考えても仕方がないと思うようになった。自分から道を切り開いていったわけではなく、起きた出来事によって導かれながら、だんだん道が決まってきた。

2010年、初めて出場した紅白歌合戦で歌つた『INORI〜祈り』とも偶然の出会いだった。広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルでもある佐々木禎子さんは、2才で被爆し12才で亡くなった。いつか元気になって、皆の待つ家へ帰れることが元氣になって、皆の待つ家へ帰れること

「私は毎朝、必ず東のほうを向いて太陽に祈るんです。自分はどうなりたいと願うんじゃないかと、何も考えずに手を合わせます。そうすることで心も落ち着くのね。そして、私が必要とされているならば、今日も行ってくださいと、目に見えない大きな力の存在に祈っています。」

ようやく岸辺が見つかった。大ヒット曲となった『広い河の岸辺』も、あるスコットランド民謡にケイナ奏者の八

木倫明さんが日本語の訳詞をつけて、ゼビクミコさんに歌ってほしいと依頼してきたのだ。「ちょうど私もあいう歌を求めていたんです。被災地のみなさんと一緒に歌える歌がないかと探していたときに、八木さんからお手紙とCDが送られてきて、これだと思いました。」

「350年も歌い継がれてきた歌ですから、とてつもない力をもった歌という感じがします。この歌が、時期を合わせたように日本へやって来たのも、長く生き残っていったため、訳した八木さんや歌手の私はこの歌の持つ力に動かされたのかもしれない。私自身この歌の、使い走りをさせられているような感覚があるんです。つまり、いまこの時期にこの歌を歌うことが、私に与えられたミッションなのかな。」

1つ違いのクミコさんは、同時代の空気を吸ってきた親近感がある。壁も気取りも無い。取りつく島はいっぱいある。たくさんしんどい思いもしているのに、それはおくびにも出さず、気遣いの人だ。すべての経験が歌に生きている。クミコ湯の湯かげんは最高!湯上りいい気分!

嬉しいことばの種まき

好評発売中



イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

常滑屋
とき 俳画教室月二回 午後一時〜三時
会費 一回 二、二五〇円(三ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六九(三三)〇四七〇

インディアンフルート教室開講しています

誰でも簡単に音が出せる楽器です。あなたも今日からインディアンフルートを奏でる姿がそこにあります。楽しく個人レッスン致します。

講師 イネ・セイミ
(日本インディアンフルートサークル協会ディレクター)
1レッスン・30分3,500円 会場・半田市柳ヶ丘
申込み 0569-89-7127
お問合せ seimi@oasis.ocn.ne.jp

入会受付中!!

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

—自分ドラマつくろう— (48) 岡田 清治

嫁の就職2

「ここが前にも話した廻船問屋の瀧田家です」
 「立派な建物ですね」
 「江戸中期の様式の建物を復元、常滑市が保存、運営している」
 「瀧田家の船は伊勢湾と江戸を往復していたのですね」
 「途中で下田などの湊に立ち寄って一週間から十日ほどかけて航海した」
 「積荷はもちろん常滑焼も含まれていたのですね」
 「そうです。ほかに米、酒、水油、瓦などを運んだ記録があります」
 「二人は土管坂を通過して登窯の見えるところまで来た。ここから煉瓦造りの煙突とか黒板塀の工場がよく見えるだろう」
 「はい、見えます」
 「焼物も一時衰えたが、フェニックスのごとくよみがえり、土と火の街、陶都と名付けている」
 「なるほど、わかります」
 「二人は焼物物の街を楽しみながら歩いた。やがてもたら陶磁器会館に戻った。ふたたびクルマに乗り込んだ。近くにINAライプミュージアムがあるので、そこでお茶でも飲んで一服しよう。ここから少し離れたところな焼卸団地に方角館があります。画廊で陶芸家の作品にも触れられるが、今回はパスしよう」
 「はい」
 「八月後半の土、日の二日間、常滑焼まつりがタレントを招いて賑やかに開催される」
 「楽しそうですね」
 「ミュージアムに着いたよ」
 「INAライプミュージアムが常滑に開設されたのは、創業者の伊奈長三郎が一七六六年に茶器の常滑焼を始めた発祥の地だからである」
 「現在は株式会社LIXILでシステム株式会社、株式会社INA、新日軽株式会社、サンウエーブ工業株式会社、東洋エクステリア株式会社が二〇一一年四月一日に統合して誕生したLIXILグループ最大の事業会社である」
 「近代便器メーカーの一方の雄であるINAが常滑で誕生している」
 「日本のトイレは世界的に有名です」
 「確か、外国映画で題名は忘れましたが、日本のトイレを驚嘆の目で見ていたシーンを思い出しました」
 「叔父さんは三〇年ほど前、中国へ行った時に便所で戸惑ったことがあった」
 「中国は日本の旧式の汲み取り式の便所でしょう」
 「そうだが、日本なら女子の公衆トイレは個室方式になっているのに、向こうでは間仕切りがないので丸見えなんだ」
 「恥ずかしいですね」
 「日本の女性は困っていた。ホテルでは部屋ごとにトイレがついていたし、いま都会では近代化していると思うが…」
 「あまり中国のトイレで困った話は聞きませんね」
 「日本では昔からホテルや店など、トイレを見ればその

の経営者の考えがわかると言われるほどで、トイレ掃除を重要視してきた」
 「トイレがきれいだと清潔感がありますね」
 「いまでは水洗の便器が家庭にも普及しているが、以前のトイレは自動化されていなかった。学校でもトイレ掃除の当番があって、順番に義務付けたところも多かった。叔父さんの知り合いの僧侶が高校の教師をし



写真：香嵐渓(著者撮影)

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。
 今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
 FAX：0569-347971
 メール：takamitsu@akai-shinbun.net



■プロフィール
 著者・岡田清治おかせいじ
 一九四二年生まれ ジャーナリスト
 (編集プロダクションNET108代表)
 著書に『高野山開創二百年いっばんさん行状記』『心の遺言』などは社員の全能力を引き出せますか!『リヨンで見た虹』など多数

ていた時に、文句も言わずにトイレ掃除を熱心に行っていた女子高生と結婚したのだよ」
 「そうですか。すごいですね」
 「一般家庭の女の人がお寺さんに嫁ぐというのは、大変な苦労があるそうだが、だから僧侶はトイレ掃除で嫁に適任かどうか判断したそうだ」
 「確かに、学生は嫌々、やりますね。なんでも一生懸命、やるのが大切だということですね」
 「そのとおり」
 「二人はINAライプミュージアムの駐車場にクルマを止めて、建物の中に入って行った。舞が土産に招きネコを探している間に慎三はトイレに向かった。そこにはさすがにすばらしい便器が設置してある」
 「いいのが見つかった?」
 「左と右手の二つを買いました。一つは母にあげようと思っっています」
 「それはいいね」
 「どちらを選ぶか楽しみですよ」
 「喫茶店でコーヒーでも飲もうか」
 「はい」
 「女性の店員が水の入ったコップ二つとおしぼりをお盆にのせて注文を聞きに来た」
 「ホット二つ。ケーキもとるか?」
 「いいです」
 「遠慮はいらないよ。まあ、昼食も近いからコーヒーだけにしようか」
 「叔父さんは今の日本社会をどう見ておられますか」
 「のつけから難しい質問だね」
 「私たちの世代はものすごく将来に不安を持っています」
 「不安というのはいつの時代にもあった。とくに今だけのことではないが…」
 「確かに時代を振り返れば、敗戦後の日本は大変だったと思います。ただ、私たちの意識の中に先の戦争のことより、神戸・淡路大震災とか、東北大震災の災害のことが大きく占めています」
 「そうかも。震災は大変なことですよ。一方、戦争は国家権力によって多くの若者や民衆の命が奪われたということだ。自然災害は備えることができるが、戦争は赤紙一枚で絶対服従の組織に組み込まれるのです。自由を奪われます」
 「どうしても戦争といえば、米軍や自衛隊が守っているから大丈夫だと思ってしまうし、敗戦後、日本は一度も戦争に巻き込まれていませんので、現実感が薄れていると思います」
 「それは残念だけど、我々としては後世に先の戦争のむごさを教訓として伝えなければならぬと思っています。今、日本は中国や韓国と領土などの問題で摩擦が起きている。また中国の軍事力強化による脅威を感じている。そのため、日本の再軍備や集団自衛権による同盟国への協力を声高に発言している人が少なくない。一見、正当な意見のように思うかも知れないが、どう考えても中国と軍拡競争しても際限がない。しかも中国は核を保有しているが、日本の核武装には欧米はもとよりアジアの国々から反発を招き、孤立の道を

歩むと思う。そうすると、また来た道と同じことになる心配があるということだ」
 「そうしますと、日本はいつまでたっても米軍と対等に話し合えないことですか」
 「日本やドイツが核武装することは、今以上に世界に緊張感を高めることになる。グローバル化した現在、新たなブロック経済の構築は世界戦争になる恐れが出てくるだろう」
 「叔父さんのお話を聞きますと、そうかもと思っしまいいます」
 「いろんな考えを持っていいし、議論をすることは大事だと思うよ。いずれにしても国連を中心に話し合うしかない」
 「北朝鮮のような挑発的な国ともですか」
 「そうですね。話し合い以外に方法はない。例えば、日本は韓国や米国の軍事同盟に同調する対応だけでなく、例えばだが単独で北朝鮮と不戦条約を結ぶことを提案してもいいと思う。まだ韓国の間で先の朝鮮戦争は終わっていないのだから、せめて日本の間には国交を回復させ、平和協定を結ぼうと働きかけるべきだと思っっている」
 「日本に米軍基地がある限り、米軍が許さないのではない」
 「そうかも知れないが、やってみる価値はある。そうでないとなんか緊張関係をいつまでも続けることは双方にとって不幸なことだよ」
 「ちょっと、話題を変えたいのですが、日本の企業社会の行方について、叔父さんはどう見ておられますか」
 「これも難しい問題だね」
 「グローバル化がさらに進み、日本の人口が減っていきますと、どうしても外国の労働者の力を借りないとやっていけないように思っっています。そうなりますと、国内企業でも日本人だけでなく、アジアなどから移ってくる人を採用するわけです。その時の共通の言語は英語になります。英語を話せない日本人は十年後には今以上に就職が難しくなると感じています」
 「確かに大きな流れはそうなると思う。もちろん、日本人だけで日本語のみでコミュニケーションをとる企業も残ると思うが、大半は世界経済の枠組みに組み入れられ、日本人労働者は世界の労働者と競争しなければならなくなる」
 「そうなりますと、労働者格差は当然、今以上に拡大しますね。能力がなければ低賃金の非正規労働者で甘んじなければならぬと思います」
 「そこで問題になるのが、日本の外国労働者の扱いだ。米軍は不法移民を職業で差別して黙認しているように見える。日本は外国人研修生制度を設け、国が一元管理するというのが、建前なのだ。ところが暴力団などが取り切り、搾取している実態が伝えられているように、日本人が敬遠する3K職場にどんどん入り込んできている。このことがすでに社会問題化しています」
 「3K職場だけでなく、大企業の職場にも進出してきていますね」

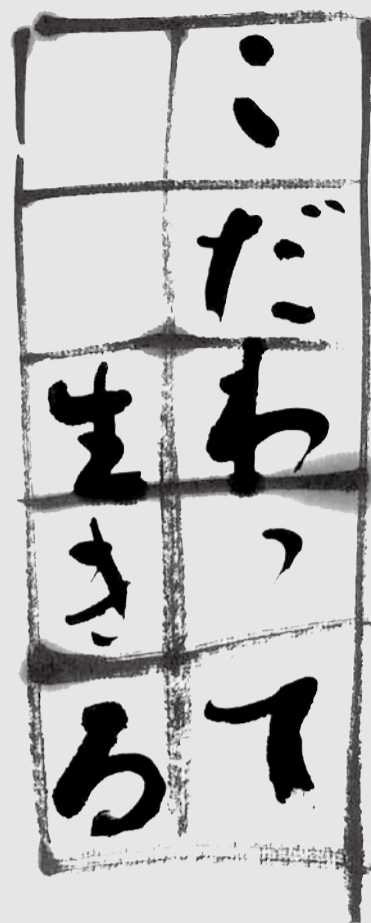
歴史を訪ね
 桜咲く
 華山の地



田原城石垣 (渡辺華山の里)

造形大美術史基礎で江戸後期に
 学者・画家・政治家として活躍した
 渡辺華山の生涯を調べたら、
 佐藤一斎に儒学を、谷文晁門下
 で西洋画法を学ぶとありました。
 華山の国宝「鷹見泉石像」佐藤一
 斎像を見たその日偶然にも、
 百四載の岡島良平翁書「佐藤一
 言」を四録少はして学へば、則ち
 仕にこそ為すあり。仕にして学へば、
 則ち老りて衰へず。老して学へば、
 則ち死して朽ちず。の額装を
 頂戴し、好奇心を拘り華山の
 里に出かけました。

絵手紙集



絵文 縦山善久

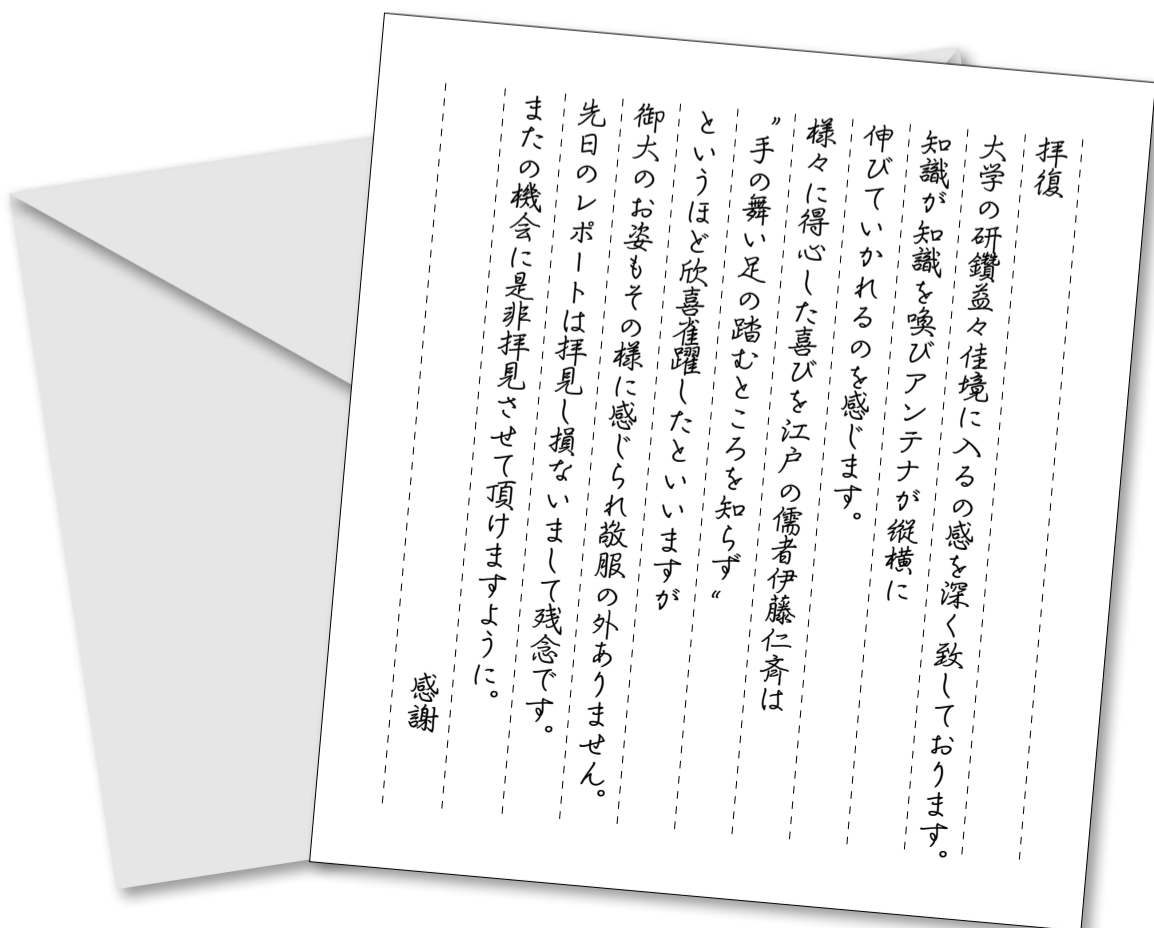
返文 小林玲子

縦山善久

昭和十一年碧南市で生まれる。
 丸栄陶業株式会社代表取締役。
 碧南商工会議所会頭。
 愛知県陶器瓦工業組合理事長。
 全国陶器瓦工業組合連合会理事長などを歴任。
 平成十三年藍綬褒章受賞。
 平成二十二年旭日小授章受賞。
 丸栄陶業株式会社取締役会長 現在に至る。
 京都造形芸術大学・通信教育部芸術学部美術科
 洋画コース大学院入学。

小林玲子

碧南市に育つ。
 西尾市在住
 共著「西尾の民話」
 童話「サケの子ピッチ」
 随筆「海辺のそよ風」
 (中経コラム「閑人帳」より)
 ミュージカル脚本
 「みぐりちゃんのおうち」ほか



拝復

大学の研鑽益々佳境に入るの感を深く致しております。
 知識が知識を喚びアンテナが縦横に
 伸びていかれるのを感じます。
 様々に得心した喜びを江戸の儒者伊藤仁斎は
 “手の舞い足の踏むところを知らず”
 というほど欣喜雀躍したといいますが
 御大のお姿もその様に感じられ敬服の外ありません。
 先日のレポートは拝見し損ないまして残念です。
 またの機会には是非拝見させて頂けますように。

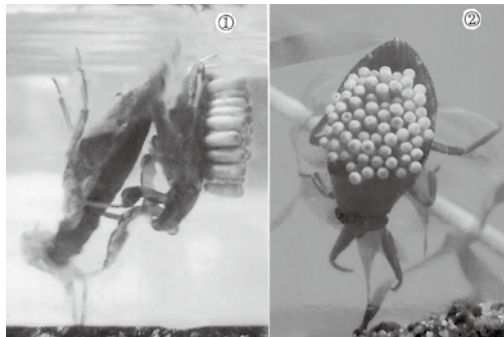
感謝

知多の動植物雑記(三一九)

原 穰

待ちに待った春到来。カレンジャーを見れば、四月五日は「清明」とあり、清く明らかなことか。正に「サクラサク」である。

で、コメケン上女である。その証となったのは、去年の六月、知多半島中央部の川(川の名前はヒミツ)で出会ったのが写真①のコオイムシの雄と雌。しかも観察会へ参加の親子さんに丁寧な説明で、場所を変えてはシャッターを押し



久しぶりに出会ったコオイムシ

これを見て、小学生の子らは「ワ、ワ、卵をしょってのじゃん」「卵をおんぶしてるの、お母さんだよネ」などなど話題は豊富。でも、残念ながら、卵をおんぶしてるのは実はお父さんで写真②になる。コオイムシはタガメ科の昆虫

で、体の大きさは、一九ミリ内外。池や沼、水田の水路などに、以前なら普通に見られたものであるが、最近では見られなくなった。だから、偶然とは云え、出会えば、ワ、ワ、いたんだスゴイと思わず声をあげてしまうのである。

四、五月頃、雌が雄の背中に卵を産み付けるが、時には嫌がる雄を追いかけ、雄の背中に卵を産みつけることもあるぞ。雄は、コオイムシの名の通り、五十個位の卵を背負い、始めは乳白色であった卵が、だんだん褐色に変わり、十日もすると小さい子虫が出て、雄の背中から殻が落ちる。

そんな、いたわりの心を持つ優しいコオイムシのようであるが、実は、この虫肉食で、ユスリカの幼虫(アカムシ)、イトミミズ、オタマジャクシ、エビや稚魚を見れば、鎌状の前脚で捕らえ、針状の口で吸血する怖

島旅回廊 ~はじめに~

半田空の科学館・半田市体育館 館長 池田 昇

20年以上前に読んだ書籍の中に「人間は“定着型”と“移動型”に分かれる」という文章を見つけ、深く納得したことを覚えています。特に共感したのは「“移動型”の人間はべたべたした人間関係を嫌い、他人と距離を取る事を好み、自由を愛し、留まる事を恐れ、他人に頼らず成功を目指し、自分の能力に過剰な自信を持つ…」というくだりでした。私は完璧に移動型の人間だと思っています。

はじめまして。池田昇と申します。東京生まれの東京育ち。半田を含め知多半島には縁もゆかりもない私ですが、この街に来てから3年が経ちました。

これまで私が暮らした街をざっと書き連ねますと、東京~神戸~東京~名古屋~東京~ハワイ~札幌~宮古島~半田となります。ずいぶんフラフラとしてきました。特に移動を望んできたわけではありませんが、これが運命なのでしょう。

確かに以前から、「自分という人間を成長させるためには同じことを長く続けるはいけない」と考えていたことは事実です。「移動することは自分を成長させるための大切な要因なのだ」と信じてきました。そしてあちこちを巡り、今は半田の街に滞在しています。

冒頭の定着型と移動型の分類はアメリカの性格分析学によるものですが、そもそもアメリカという国自体が移動を繰り返してきた歴史を持っています。また、観光客で賑わうハワイやタヒチといった太平洋の島々も、元々は東南アジアの一族が船に乗って太平洋を航海し、この先にも島があるかも知れないという開拓精神により、トンガ、サモア、タヒチ、ハワイといった島を一つずつ発見してきました。移動こそがパイオニアの証なのです。

このコラムでは、私のこれまでの移動生活からハワイと沖縄で体験してきたことを綴ってみたいと思います。この2つの国には沢山の共通点があります。かつてはハワイ王朝と琉球王朝という王国であり、共に豊かな自然があります。「ハワイアン・ミュージック」と「琉球音楽」という音楽文化があります。「ウクレレ」と「三線」という楽器文化があります。「アロハシャツ」と「かりゆし」という洋服文化があります。悲しい共通点もあります。太平洋戦争では共に闘いの舞台となりました。終戦から70年という節目の2015年に、私が暮らしたハワイと沖縄という2つの「島」を紹介できるのも運命なのでしょう。

そもそも私達が住んでいる日本そのものが島です。私達は日本という素晴らしい島を、一生という長い時間をかけて旅しているのです。

私がこれまで体験してきた島旅回廊を巡って、皆様が少しでもお楽しみ頂けたら幸いです。



ハワイの州花 ハイビスカス



宮古島の島花 ブーゲンビリア

A congratulatory message for a child's graduation. It features a photo of the child in a graduation cap and gown, a photo of the child playing soccer, and the text 'Congratulations on your graduation! My dream is to be a soccer player.' The background is decorated with cherry blossoms.

若竹俳壇

陶離展立ち寄ってみる帰り途 水のひらはちいさき器離あられ 手切りの石の弾んで卒業す ジーパンを袴に替えて卒業す 復興の祈りを込める震災忌 雄猫の待とう口に苦みと香り立つ 誰猫の待とう帰らぬ春の宵 管制塔望む浜辺や若布干す 干鰯をひときり囃んでひとり酒 生くこと素晴らしきかな弥生尽 人も群れ鳥も集まる梅日和 鬼は外福は内の笑顔かな 菜の花にまざる黄色の色はなし 散歩道遠回りして初音聞く おしやべりも楽しいも雲雀かな 伊勢の海空港も消す黄砂かな 手弱女の心ひとすじ黄砂の忌 散歩道あなただ好みの桜咲く 梅ごとに違う香りに目を閉じて スリッパで踏み粉々の福の豆 うき母の思いも込めたら夢ごこち 難関を数多乗り越え山笑う 芭蕉の句想い出すかなすみれ草 指相撲孫と勝負の春炬燵 朝早く雪嶺眩し至福かな 縁早く雪嶺眩し至福かな 猫やなぎふくらむ花穂に雨が降る 接骨院春待つ言葉ばかりなり 紋白蝶も持つつららの幼稚園 白梅にひかれる八十路前

吉田ひろし 斉藤 浩美 加藤 久子 片岡 光子 関 里美 杉江 千鶴 塚本 民鶴 谷川と志江 古川 義高 古川三恵子 竹内三子彦 杉山 和美 谷川 和子 平野 紀江 磯村美耶子 村井 節也 中尾 一男 高尾 ひとみ 浦崎ひとみ 桑山 撫子 清水トヲ吉 杉江 タエ 富田 悦子 中山 洋子 林 文月 藤井 京子 山中 博子 都築 信子 服部 照平 中村 洋子

▼正午 午後七時~八時半 内容 ①春の野草や虫の観察 ②佐布の里山でヘイケボタルの観察 ③海辺の生き物の観察 ④水田や水路の生き物の観察 ⑤キノコの観察 ⑥野鳥の観察 講師 知多自然観察会 対象 定員 知多自然観察会 小学生以下は保護者同伴 定員 四十名申込み多数の場合は抽選参加費 一人六百二十円(六回分)申込み 十二日(木)まで

▼星の観察会 ①二十五日(土)七月二十五日(土) ②九月十九日(土) ③十一月十三日(土) ④一月十七日(土) ⑤三月十三日(土) ⑥五月十一日(土) ⑦七月九日(土) ⑧九月六日(土) ⑨十一月四日(土) ⑩一月二日(土) ⑪三月二日(土) ⑫五月一日(土) ⑬七月一日(土) ⑭八月十八日(土) ⑮十月十八日(土) ⑯十二月十八日(土) ⑰一月十六日(土) ⑱三月十六日(土) ⑲五月十六日(土) ⑳七月十六日(土) ㉑九月十四日(土) ㉒十一月十四日(土) ㉓一月十二日(土) ㉔三月十二日(土) ㉕五月十二日(土) ㉖七月十二日(土) ㉗九月十二日(土) ㉘十一月十二日(土) ㉙一月十(土) ㉚三月十(土) ㉛五月十(土) ㉜七月十(土) ㉝九月十(土) ㉞十一月十(土) ㉟一月八(土) ㊱三月八(土) ㊲五月八(土) ㊳七月八(土) ㊴九月八(土) ㊵十一月八(土) ㊶一月六(土) ㊷三月六(土) ㊸五月六(土) ㊹七月六(土) ㊺九月六(土) ㊻十一月六(土) ㊼一月四(土) ㊽三月四(土) ㊾五月四(土) ㊿七月四(土) 一 九月四(土) 二 十一月四(土) 三 一月二(土) 四 三月二(土) 五 五月二(土) 六 七月二(土) 七 九月二(土) 八 十一月二(土) 九 一月一(土) 十 三月一(土) 十一 五月一(土) 十二 七月一(土) 十三 九月一(土) 十四 十一月一(土) 十五 一月(土) 十六 三月(土) 十七 五月(土) 十八 七月(土) 十九 九月(土) 二十 十一月(土) 二十一 一月(土) 二十二 三月(土) 二十三 五月(土) 二十四 七月(土) 二十五 九月(土) 二十六 十一月(土) 二十七 一月(土) 二十八 三月(土) 二十九 五月(土) 三十 七月(土) 三十一 九月(土) 三十二 十一月(土) 三十三 一月(土) 三十四 三月(土) 三十五 五月(土) 三十六 七月(土) 三十七 九月(土) 三十八 十一月(土) 三十九 一月(土) 四十 三月(土) 四十一 五月(土) 四十二 七月(土) 四十三 九月(土) 四十四 十一月(土) 四十五 一月(土) 四十六 三月(土) 四十七 五月(土) 四十八 七月(土) 四十九 九月(土) 五十 十一月(土) 五十一 一月(土) 五十二 三月(土) 五十三 五月(土) 五十四 七月(土) 五十五 九月(土) 五十六 十一月(土) 五十七 一月(土) 五十八 三月(土) 五十九 五月(土) 六十 七月(土) 六十一 九月(土) 六十二 十一月(土) 六十三 一月(土) 六十四 三月(土) 六十五 五月(土) 六十六 七月(土) 六十七 九月(土) 六十八 十一月(土) 六十九 一月(土) 七十 三月(土) 七十一 五月(土) 七十二 七月(土) 七十三 九月(土) 七十四 十一月(土) 七十五 一月(土) 七十六 三月(土) 七十七 五月(土) 七十八 七月(土) 七十九 九月(土) 八十 十一月(土) 八十一 一月(土) 八十二 三月(土) 八十三 五月(土) 八十四 七月(土) 八十五 九月(土) 八十六 十一月(土) 八十七 一月(土) 八十八 三月(土) 八十九 五月(土) 九十 七月(土) 九十一 九月(土) 九十二 十一月(土) 九十三 一月(土) 九十四 三月(土) 九十五 五月(土) 九十六 七月(土) 九十七 九月(土) 九十八 十一月(土) 九十九 一月(土) 一百 三月(土)

